

学生だつて 地域のか

参加費
無料

～災害支援から日常の支え合いへ、
学生ボランティアの力とわがまちの防災力 UP～

2014年6月14日[土]

13:00～16:30

中央大学9号館 クレセントホールにて

《1部》基調講演

《2部》パネルディスカッション

地域のみなさまへ

2013年4月1日、中央大学に「ボランティアセンター」が開設されました。

ボランティアセンターの使命の1つは、

学生ボランティアを通じて地域のみなさまとつながり“わがまちを元気に”することです。

そこで設立1周年を記念して、地域のみなさまと一緒に、

学生ボランティアの力をわがまちの力に生かす方法を、考えてみる場を開いてみることにしました。

ひとりでも多くの方にお会いし“わがまち”を熱く楽しく語り合うことができれば幸いです。

中央大学ボランティアセンターより



学生だって地域の力

～災害支援から日常の支え合いへ、学生ボランティアの力とわがまちの防災力 UP～

2014年6月14日[土]

13:00～16:30 ※12:30～開場

中央大学 9号館 クレセントホールにて

事前申込不要
参加費無料

- 対象／学生、教職員、地域住民、そのほか一般
- 定員／250人
- 主催／中央大学ボランティアセンター
- 共催／明星大学ボランティアセンター
- 協力／八王子市社会福祉協議会・日野市社会福祉協議会

プログラム

≪ 1部 ≫ 13:10～14:40 (90分)

基調講演

「これまでの災害から考える、事前復興という街づくり」

講師：山中 茂樹氏 (関西学院大学 災害復興制度研究所)

≪ 2部 ≫ 14:50～16:20 (90分)

パネルディスカッション

コーディネーター：中澤 秀雄氏

(中央大学法学部教授・ボランティア担当委員)

登壇者：渡戸 一郎氏 (明星大学人文学部教授・前ボランティアセンター長)

中央大学生、明星大学生、地域の方

山中 茂樹 (やまなか しげき)

1946年生。大阪府出身。現在、関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・教授。朝日新聞神戸支局次長の時、阪神・淡路大震災に遭遇。これを機に震災・防災担当の編集委員に転じ、震災10年にあたる2005年4月、朝日新聞社に在籍したまま関西学院大学の災害復興制度研究所創設に参加、主任研究員に就任した。兵庫県の「台風23号災害検証委員会」や国の「首都直下地震の復興対策のあり方に関する検討会」の委員などを歴任。専門は災害復興論。日本災害復興学会副会長・理事(総務・広報担当)、(社)減災・復興支援機構副理事長。著書に『復刻版 復興経済の原理及若干問題』(関学出版会)『震災漂流者―人間復興のための提言』(河出書房)『いま考えたい～災害からの暮らし再生』(岩波ブックレット)、『震災とメディア』(世界思想社)、『論―被災からの再生』(関学出版会)など。2007年4月から08年3月まで、雑誌「ガバナンス」(ぎょうせい)に、コラム「災害復興のデザイン」を連載。



～プログラム内容について～

＜災害支援から日常の支え合いへ、学生ボランティアの力とわがまちの防災力 UP＞

中央大学と明星大学は、東日本大震災発生後から今日まで被災地支援ボランティアに取り組んできました。また、災害支援で得た学びをこの多摩地域の防災にも還元できないかと考えてきました。一方、シンポジウムにご協力いただく八王子市社会福祉協議会と日野市社会福祉協議会は、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施するなど、災害対策に取り組んでいます。これらの地域と大学をつなぐテーマを考えたとき、まず浮かんできたことが「わがまちの防災」でした。第1部の山中茂樹先生のご講演では、阪神淡路大震災から中越地震、東日本大震災の震災の歴史の中で、災害により地域がどのように変化したのかをうかがいます。第2部では、学生と地域が互いにどう力を合わせていくことができるのか、みなさまと一緒に考えます。



お問い合わせ (中央大学ボランティアセンター)

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

6号館地下1階学生課内

Tel / 042-674-3487 Fax / 042-674-3469

Mail / chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

Web / <http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/>

Access / 多摩モノレール 中央大学・明星大学駅 直結

京王線 多摩動物公園駅下車 徒歩10分

*公共交通機関をご利用下さい

